会議結果のお知らせ

１　開催した会議の名称

令和７年度第１回大分県立図書館協議会

２　開催日時

令和７年８月２２日（金）１４：００～１５：４０

３　開催場所

大分県立図書館　３階　特別会議室

４　出席者

（１）　委員（１０名中９名出席）

佐藤晃洋 委員長、後藤礼次郎 副委員長、大島真美 委員、長尾秀吉 委員、植田誠 委員、甲斐榮 委員、川原恒太郎 委員、浅野則子 委員、佐藤栄宏 委員

（２）　事務局

石掛館長、浜田副館長、馬場副館長兼学校・地域支援課長、麻生総務企画課長、梅田サービス課長、増本郷土資料室長、及び担当総括

５　公開、非公開の別

公開

６　傍聴人数

１名

７　議事等

〇議事

（１）令和６年度事業実績について

（２）令和６年度運営の状況に関する評価（重点目標の達成状況）について

〇報告

（１）大分県立図書館の休館日及び開館時間等の見直し（案）に対する県民意見の募集の結果について

８　審議及び会議録の概要

議事（１）について

〇事務局から以下の資料により説明した。

資料１	基本方針及び令和６年度重点目標
資料（別冊）	要覧　２０２５（令和７）年度
参考資料	新聞等を通じた広報について

○委員からの質疑等

＜質問＞

① 団体貸出は減っているのか。予約して本を受け取りに来るのか。手間がかかるかもしれないが、郵送できるようになるとありがたい。

② 昨年度の子ども読書推進員の活動はどうだったか。

＜事務局回答＞

① 団体貸出は、令和６年度実績で前年度と比べて少し減っている。冊数が多いということもあり受け取りに来ていただくようにしているが、弾力的な運用ができないか、今後検討したい。

② 子ども読書推進員の派遣・紹介が１３件、相談が２件。今年度は、読み聞かせグループの調査結果を元に、読み聞かせ活動をしている小学校へのお知らせ等を行っている。

＜委員からの意見＞

- 大分県立美術館が子どもたち向けに行っている「美術館の旅じたく」という取組がある。美術館の方が幼稚園に来て、美術館に行くための準備としていろいろ教えるもので、園児が興味を持つきっかけとなり来館者数増につながるのではないかと感じた。
- 図書館のレファレンスであれば、幼稚園で、調べることについて話しあい、わからないことや調べごとを、ＡＩ等に任せず図書館の方から教えていただくこと、多様な人達と想像し考える過程がアナログだが大事。レファレンスと調べ学習の支援は別々の事業になっているが、組み合わせていく取組を図書館へ提案したい。
- 子ども読書推進員の派遣は、件数が少なくて残念。読み聞かせは、ただ読めばよいというものではなく、活動の骨格があるので、新しい推進員が基本的なことを知り学習したうえで支援活動を行うようにしてもらいたい。
- 協議会での説明が事業実績にとどまり、それに対する委員の質問が多いと感じた。事業実績とその評価も大事だが、図書館に来ない、図書に触れない人が多く、それにアプローチできていない課題、図書館はこれまでの運営でよいのか、どうすればよいのかを協議することが大事。
- 図書館の目的に向けて知恵を出せるよう、議事運営や進め方を工夫してほしい。
- 県立図書館が頑張っていることはよくわかるが、図書館だけではなく、医療機関や他の行政機関等とコラボレーションしてやっていくことが必要。

＜事務局説明＞

- 小中学生や高校生を対象としたスクールサービスデー等で調べ学習を行っており、ある程度自分達で調べたうえで足りないものを図書館に来て調べることが大事だと考えている。幼稚園児にどこまでできるかということはあるが、今後検討したい。
- 子どもに本を届けようという思いのもと、学校や図書館関係者への研修や子ども読書推進員を通した間接的な取組を行っているところ。図書館職員が直接出向く取組について、今後検討したい。
- 様々な関係機関との連携も大事だと考えている。図書館を利用していない方々に利用していただくよう、取り組んでいきたい。

議事（２）について
〇事務局から以下の資料により説明した。

資料２　大分県立図書館運営の状況に関する評価

〇委員からの質疑等

＜質問＞

① 重点目標⑴「ＤＸの推進による非来館型サービス・情報発信の充実」についての評価指標（デジタルアーカイブの資料閲覧数）及び⑸「県民・地域の課題解決の支援、多様な学習機会の提供」の評価指標（レファレンス件数（簡易なものを除く））は、それぞれどのようなものか。

② 重点目標⑵「多様な利用者の読書活動の推進」の理由のところに学習室の利用者数が 5.2%減少しているとの記載があるが、どのような理由か。

③ 重点目標⑹「市町村立図書館、学校図書館等支援」の評価指標「協力貸出冊数」は減少しているが、理由欄に「利用件数は例年並みであった」とあるのは、１回あたりの貸出冊数が減ったということか。

＜事務局回答＞

① ⑴の評価指標は、大分県立図書館のホームページにある「おおいたデジタル資料室」へのアクセス件数（個人パソコン等と当館内で利用できるパソコンからの閲覧件数の合計)、⑸の評価指標は、例えば「何時まで空いているか」といった簡易なものを除き、「こんな調査をしたいのだが」といった内容の件数としている。

② 席と席の間を空けて座れるよう席数を減らしたこと等が理由と思われるが、利用者が減っているという印象は持っていない。

③ 分析できていないが、そう言えると思う。

＜委員からの意見＞

（事務局から各委員へ、後日、個別に意見を提出していただくよう依頼した。）

報告（１）について
〇事務局から以下の資料により説明した。

資料３　大分県立図書館の休館日及び開館時間等の見直し（案）に対する県民意見の募集の結果について

〇委員からの質疑等

特になし